

50周年を迎えるカンディ ハウスケルンでも好評

カンディハウスは1月ドイツ・ケルンで行われた「ケルン国際家具インテリア見本市 2018」に出展し、TENの新作やYUKAR^{ユカ}を出品しました。TENエクステンションテーブルはすっきりとしたデザインでそのままに伸長するという点が好評価。高さの違いで印象を大きく変えるサイドボードとハイボード。TENのさらなる広がりを見せた世界観。



TEN by Michael Schneider

職人的技術によって生まれた セルジュ・ムーユのランプ

1950年代前半から60年代の半ばにかけてパリのデザインシーンを牽引したSerge Mouilleのランプ。現在イデーでは8作品が復刻しています。2006年まで制作していたシルバー塗装のCOCOTTEを30台限定で復刻販売しました。ブラックとは一味違う魅力を持つシルバーのランプは、書斎や作業台などで静かな存在感で落ち着きのある空間を演出します。



COCOTTE by Serge Mouille

Fritz Hansenからグラ ンプリテーブル復刻!

アルネ・ヤコブセンの傑作であるGRAND PRIXは、1957年にミラノ・トリエンナーレで栄誉あるグランプリを獲得したことから、グランプリチェアと名付けられました。そして2017年に、60周年を記念してグランプリテーブルが復刻。ベニヤのテーブルトップをスチールのレールを取り付け、脚を幅広にし、オリジナルデザインを崩さず強度を向上。



Grand Prix Table by Arne Jacobsen

お洒落なボードならMK マエダの新作をwebで

MK マエダでは MK Collection 2018 webカタログがアップされました。新製品のLMUDAはヘリンボーン柄の扉が特徴的。シンプルかつ上品にクラシカルな仕上がりを目指しました。柵目は視点や光が変わるだけで豊かな表情を映し出します。幅が1800と1500のテレビボードはスライド式の扉に引き出し収納。高さ800のキャビネットは片扉で開き収納。



LMUDA by MK maeda

NyChair X Shikiri 世界に誇る日本の椅子

古来から、日本の建築には几帳や屏風、衝立、簾など様々な「しきり」がつかわれてきました。外のまぶしさや外からの視線を遮りながらも、ほのかに光や風、音を伝えるそれらの「しきり」は、日本の住まいになくてはならない暮らしの道具でした。NyChair X Shikiriは「しきり」をコンセプトに、室内と戸外との間に緩やかなつながりを持たせる道具として、新たにデザインされました。



NyChair X Shikiri by Takeshi Nii

MAGIS Troy woodlegs プライウッドの座にピッタリ

Marcel Wanders の Troy シリーズに、ナチュラルなウッドベースタイプが登場。ビーチ材の脚部はナチュラルとブラック塗装仕上げ。シートは、カラフルなポリプロピレン製と3色のプライウッド製、それぞれにファブリックのフロントカバーをつけたタイプがあり、豊富なカラーバリエーションから選べます。木製の脚部パーツはアルミダイキャスト。



Troy woodlegs by Marcel Wanders

デザインの根底には、エコロ ジー、持続可能性、リサイクル

EcoFurn^{エコファーン}の家具は木とロープだけというシンプルな材料でありながら、包み込まれるような背もたれのエコチェア、サイドテーブルにもなるオットマン、ベンチは脇に物を置いて一人で腰掛けでもゆったりできるサイズです。湿気や気温への耐久性の高さから、アウトドアやサウナにも使える他、テラスやガーデンなど、アーバンライフスタイルの演出として楽しめます。



EcoFurn by SCANDEX

YAMAGIWA から乳 白色 LAMPAS 復刻

LAMPAS^{ランプラス}は1958年に佐々文夫氏がデザインされました。保谷クリスタル硝子製造所は、クリスタル食器の商品開発を積極的にスタートさせた時期で、同時にそれらにマッチする乳白の照明器具としてLAMPASが発表されました。YAMAGIWAでは復刻照明シリーズとして、サイズダウンし、乳白のセードには珪ガラスを使い、ハンドワークならではの優しい風合いも当時の空気を残しています。



LAMPAS by Fumio Sasa

